

2022年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第4大会（第7戦／第8戦） 参戦レポート

8月27日（土）～28日（日）、鈴鹿サーキット（三重県）で2022年FIA-F4選手権シリーズ第4大会（第7戦、第8戦）が開催されました。HFDP(Honda フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5 小出峻（1999年10月26日生まれ。22歳）、#6 西村和真（1999年7月21日生まれ。23歳）、#7 三井優介（2002年4月22日生まれ。20歳）の3人が参戦しました。

三井、2連勝で再びランキング首位へ、HFDP チームとしては8連勝

■公式予選（20分間+20分間）：天候/晴れ 路面/ドライ



公式予選は8月27日土曜日、出走車両をA組、B組の2グループに分け、午前8時15分のA組セッションから始まりました。鈴鹿サーキットの上空には薄い雲が広がり、路面はドライコンディション。A組には#5 小出、#6 西村が出走しました。2台は先頭を切ってコースイン、タイヤをウォームアップしてタイムアタックに入りました。#5 小出は好調で、ウォームアップ後のタイムアタックで2分11秒639を記録してトップに立つと、2分09秒177、2分09秒059と自己ベストタイムを短縮していき、セッションベストタイム、セカンドベストタイムを記録して、セッション5分を残しタイヤを温存するためにピットへ戻りました。ベストタイム、セカンドベストタイムとも、#5 小出のタイムを上回る選手は現れないままセッションは終わりました。#6 西村はベストタイム、セカンドベストタイムとも3番手につけました。

午前8時45分からはB組セッションが始まり、#7 三井が出走しました。三井はコースイン後、集団に取り込まれてしまい、なかなか自分のペースで走れずタイムも上がりませんでした。4周目のアタックで2分08秒971を記録してそれまでの12番手から一気にトップに立ち、次の周に2分09秒496を記録してセカンドベストタイムでもトップとなりました。#7 三井はさらにセカンドベストタイムを2分09秒000へと短縮してため押しをした後、セッションを終えました。



この結果、B組でベストタイムを記録しA組の#5 小出を上回った#7 三井が第7戦、第8戦のポールポジションを獲得しました。#5 小出は第7戦、第8戦とも2番手、#6 西村は第7戦、第8戦とも6番手のスターティンググリッドにつくこととなりました。

【第7戦スターティンググリッド】

1番手 #7 三井 優介 2分08秒971
2番手 #5 小出 峻 2分09秒059
6番手 #6 西村 和真 2分09秒356

【第8戦スターティンググリッド】

1番手 #7 三井 優介 2分09秒000
2番手 #5 小出 峻 2分09秒097
6番手 #6 西村 和真 2分09秒465

■第7戦決勝レース（11周）：天候/曇り 路面/ドライ



鈴鹿サーキット上空の雲は晴れないまま、午後2時過ぎ、シリーズ第7戦決勝レースのスタートが切られました。ポールポジションの#7三井は好加速してトップを守ったまま第1コーナーへ飛び込みましたが、イン側2番手からスタートした#5小出は加速が鈍り、アウト側から#35荒川選手が並びかかって小出の前へ抜け出しました。小出は3番手で第1コーナーを抜け、後続を押さえにかかりました。ところがこの後、ヘアピンコーナーで中団車両が接触するアクシデントが発生、オープングラップからセーフティーカー（SC）が介入しまし

た。

SCランは3周目いっぱい続き、4周目からレースはリスタート。先頭の三井はポジションを守ったままレースを再開、3番手の小出は2番手の加速が伸びない荒川選手に近づき、スプーンカーブ立ち上がりでテールトゥノーズに持ち込むと、130Rでアウト側から並んでオーバーテイク、2番手へ進出しました。

小出は勢いに乗ってファステストラップを記録しながら先頭を走る三井との間隔を縮め始めましたが、5周目に再びコース上でアクシデントが発生しSCが入りました。レースは9周目から再開されましたが、リスタートでは三井がうまくスタート、小出は2番手に続きました。三井はそのまま小出との間隔をわずかに広げながら残り3周を走りきり、開幕戦以来自身2回目の優勝を飾りました。6番手からスタートした西村は集団に取り込まれましたがポジションを守り切り6位でレースを終えました。



【FIA-F4選手権シリーズ第7戦・レース結果】

#7 三井 優介 決勝1位 (29分46秒887 ベストタイム 2分10秒150)
#5 小出 峻 決勝2位 (29分47秒733 ベストタイム 2分09秒836)
#6 西村 和真 決勝6位 (29分50秒903 ベストタイム 2分10秒862)

■第8戦決勝レース（11周）：天候/曇り 路面/ドライ



8月28日日曜、午前8時30分にシリーズ第8戦の決勝レースが始まりました。天候は回復傾向で鈴鹿サーキット上空の雲は晴れつつありましたが、夜半に降った雨の影響でコースコンディションは、コースの一部にウェットパッチが残っている状況となりました。

スタート合図とともにポールポジションの#7 三井はうまく加速、首位を守ったまま第1コーナーへ向かいましたが、2番手スタートの#5 小出はスターティンググリッドの路面が濡れていた影響でホイールスピン、加速が鈍って3番手の#35 荒川鱗に並ばれ、さらに進路を

失って加速しきれず、4番手の#36 小林利傑斗にもアウト側から並ばれ、S字コーナー入り口で4番手へ後退しました。

一旦順位を下げた#5 小出はすぐさま#36 小林の背後につけるとダンロップコーナーでインに飛び込み、順位を入れ替えて3番手へ浮上。その背後では#6 西村が5番手争いの集団で激しく争うことになりました。

先頭を走る#7 三井は周回毎に後続との間隔をじりじり開き始めましたが3周目、コース上でアクシデントが発生、SCが介入しました。レースは6周目から再開しましたが#7 三井は後続に脅かされることなくポジションを守って加速、3番手の#5 小出は2番手の#35 荒川との間隔を詰めて攻め寄せると第7戦同様、7周目のスプーン立ち上がりでテールトゥノーズに持ち込みバックストレートでスリップストリームに入ってインから2番手へ進出しました。その後#35 荒川が逆襲の構えを見せましたが#5はこれを押さえ込んで2番手の座を守りました。



この攻防の間に先頭の#7は#5 小出との間隔を2秒以上に開いており、#5 小出の追撃を振り切って残り3周を走りきって第7戦に続く優勝を飾りました。#5 小出は2位、#6 西村は7位でレースを終え、それぞれ選手権ポイントを加算しました。

この結果、連勝を遂げた#7 三井はシリーズポイントを162点に伸ばし、161点の#5 小出をかわしてランキング首位に立ちました。40点の#6 西村はランキング8番手につけました。またHFDPは開幕以来全勝の8連勝を記録、チーム部門で2番手に97点差の200点でトップを守りました。

【FIA-F4選手権シリーズ第8戦・レース結果】

#7 三井 優介 決勝1位 (26分59秒013 ベストタイム 2分09秒645)

#5 小出 峻 決勝2位 (27分01秒230 ベストタイム 2分09秒854)

#6 西村 和真 決勝7位 (27分05秒231 ベストタイム 2分09秒974)

■2021FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2022 シーズン第8 戦終了時点)

1 番手 #7 三井 優介 162 点

2 番手 #5 小出 峻 161 点

8 番手 #6 西村 和真 40 点

(1 位 25 点、2 位 18 点、3 位 15 点、4 位 12 点、5 位 10 点、6 位 8 点、7 位 6 点、8 位 4 点、9 位 2 点、10 位 1 点)

■2022FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2022 シーズン第8 戦終了時点)

1 番手 HFDP 200 点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント：#5 HFDP RACING 小出 峻



予選はA組、B組で別れてしまうと、どうしてもコンディションに差が出て有利不利が出てしまいます。今回は、1位からスタートできていたらと気持ちは複雑ですが、2位からでも前に行けなかったのは自分の責任です。土曜日は完全に僕のミスで遅れてしまいました。日曜日は僕のグリッドの左リアだけちょっと濡れていて、気を付けてスタートしたんですが、ホイールスピンして順位を落としてしまいました。さらに土曜日のレースでダウンフォースが抜ける状態で走っているのに、フロントタイヤにダメージが溜まっていて、ペースには限界がありました。もうスプーンでしか勝負できないと思ったので、その前に近づきすぎるとタイヤに熱が入ってしまうのでまずは離れておいて、少しずつ近づいていって、最後のスプーンでズバッと抜くという走りに集中していました。今回は2レースともスプーンで速く走れて、その先のバックストレートとシケインでオーバーテイクできたのは良かった点です。ランキングで逆転されたことは特に意識はしていません。1ポイントはあつてないような点差だし、フラットな気持ちでいます。負けたことは必ず自分の経験値を高めると思うので、意味があったと思っています。あのとき負けて良かったんだと、5年10年経った時に思えればいいんです。



●ドライバーズコメント：#6 HFDP RACING 西村 和真



前回の富士がうまく走れず、結構悩んでいたんですが、(金石)年弘さんや阿部(正和)監督に相談しつつ、金曜に練習走行をしたら、僕の課題だった部分を改善する方向が見えて、結構調子良くなって2、3番手を走れるようになりました。ただ、逆に調子が良かった分、予選で前に行かなくちゃという気持ちが強くなり過ぎ、緊張して固くなってしまい、ペースが上げられませんでした。その結果が響いてしまい、決勝レース中のペース自体は良かったんですが順位は上げられませんでした。前を走っているクルマを仕留める能力とか、前にクルマがいるときのペースの上げ方などに、まだ課題が残っています。ただ、ポジションは上げられなかったけれど、後に譲ることもなく走れるようになってきているので、少しずつながら前進しているかなとは思いますが、この調子で成長して勝てるようになりたいです。



●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 三井優介



もちろん今週末も勝つつもりでサーキットに来ましたが、本当に勝てるとは思ってなかったのが、良い意味で予想外の展開でした。前回の富士では小出君に負けてしまい、走りの差が大きくて、自分が何か大きく変わらないとトップに立てということがわかり、色々研究してきたんですが、悩めば悩むほど新しい課題が生まれるという感じでした。でも元々自分が持っているスタイルに修正をかけていこうと頭を切り替えたならタイムが戻ってきたので、そこに磨きをかけて今回優勝ができました。ただ、土曜日は勝ったとはいえペースに少し課題があったので、もう一度勉強し直した結果、日曜日は納得できるペースで走れたので満足です。いつもはレースのとき心臓の音が聞こえるぐらい心拍が上がったりするんですが、今回は朝から終始平常心でいられました。追い詰められても引き離すことができたのは冷静でいられたからだと思います。結果にとらわれず、自分の納得できる走りに徹すればレースで勝てるということが分かったので、この調子で後半戦も頑張ろうと思います。

